

ソフトウェア開発

桶本駅から徒歩5分ほどの国道16号沿いにモダンな自社ビルを構え、社長以下全社員が技術者、

た。生活は安定していた。造センター）等に事業拠点を移しながら成長を重ね、2007年に現在の

緩和に乗じた形で躍進した企業が極めて多いが、同社事業の核は自社内作業による受託開発。それには日野社長の経営理念が密接に関わっている。

緩やかなことも目標になり得るが、それ自体に価値はない」

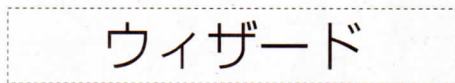
とはいえ時代の流れは速く、変化は激しい。仕事の主導権が取引先にある以上、理想ばかり追いかねない。

出向や出張等はほとんどなく勤務時の服装は自由。ソフトウェア開発をはじめIT関連業務を手掛けるウィザード（相模原市緑区橋本2の20の22、日野範明社長は、そんなユニークな企業だ。

37



人と企業群



「会社は社員のためにある」と日野社長

リーマンショックの衝撃をも社員のリストラ無しに乗り越えてきた同社だが、ここに至り少々軌道修正を施している。

また、第2、第3の矢を放つには開発資金がいる。そのために最近、3名の派遣社員を雇用。派遣事業を基幹には据えない自律心を保ちつつ、今後少し広げていく計画だ。

本来「魔法使い」を指す wizard には、時流の中で転じた「複雑な処理を段階的に行なう対話型コンピュータプログラム」「熟練者」といった広義があり、なかなか気の利いた社名といえる。

この間、IT関連業界にも労働者派遣法の規制

「社員とその家族の幸せを提供できてこそ、会社への存在価値がある。それのために必要であれば大

御環境、コンシューマ系までさまざまな分野のソフトウェアを高水準で受託開発してきた同社に寄

せる信頼は揺るぎない。だが、受注単価は下がる一方。おそらくこの流れは今後も止められない。「ビジネスの主導権を握れる自社製品を開発していく必要がある」と日野社長。

日野社長は大学卒業後、大手電気機器メーカーの富士電機で17年間、制御装置の開発に従事し

相武台の小部屋に2人でスタート。その後、SIC（さがみはら産業創

「社員とその家族の幸せ」が会社の存在価値

IC（さがみはら産業創

後、大手電気機器メーカーの富士電機で17年間、制御装置の開発に従事し

(矢吹 彰)